

一般社団法人
兵庫県公認心理師会

Hyogo Society of Certified Public Psychologist

ニュースレター



2026.9
第11号



巻頭言

公認心理師の資格を取ること 監事 大島 剛

《特集》多職種連携

中植 満美子 特別編集

コラム マラソン 「私の職場」 #11

兵庫県・大阪府スクールカウンセラー／専門学校非常勤講師 川元 佳子

研修報告

兵公心Café#19－#21

教育・SC領域研修 「いじめ第三者委員会：公認心理師は何をするのか」

2025年度冬季全体研修 「心理検査－アセスメント－心理治療・支援を総合的に検討する」

2026年度夏季全体研修 「認知行動療法の基礎と臨床での活かし方～認知行動療法の活かし方

各委員会より

- ① 広報委員会より
- ② 研修委員会より
- ③ SC・教育領域委員会より
- ④ 福祉・司法領域委員会より
- ⑤ 医療・産業領域委員会より
- ⑥ 広報委員会・事務局より

【巻頭言】 公認心理師の資格を取ること

監事 大島 剛 (NPO法人親と子のふれあい研究会)

心理学を専門的に学ぶ学科の新入生に、なぜここに来たかと聞くと、まず国家資格である「公認心理師」の資格が取りたい、資格が取れるからこの大学に来たと話すことがある。

資格を取ることが第一義的な目標のように感じるが、それは間違いではないし、これからも頑張ってもらいたいと純粋に思う。ただ無資格で現場で働き始め、あとから世の中の流れで資格を取った私からすると、少しもやもや感が残る。大学・大学院は資格取得のための専門学校ではないだろうという私の意識があるからだろうか。

大学・大学院で学んだことを社会に生かしたい、こんな仕事をしたい、そのために公認心理師の資格があるので取りたいという発想を持ってほしいと考えることは理想論過ぎるだろうか。実際、大学・大学院と学びを進めていくうちに現実が見えて、今後の進路が選択されていくので、資格を取ったらそれでいいと思っていないかという私の思いは杞憂であろう。

公認心理師の資格試験が他の国家資格と同様に数年前から3月に実施されることになっている。臨床心理士試験は大学院修了後の秋にあるのに対して、まだ修了していない大学院生が受験し、合格を目指すわけである。半年早くにこの試験があるために450時間の実習、並行して修士論文の執筆しなければならない受験生の負担は増大している。養成校はこのことの対応を余儀なくされ、カリキュラムや実習のあり方、修士論文の作成に関して従来のスケジュールに手を加えなくてはならなくなった。もちろん心理専門職養成に対して質を落とさないよう苦慮していると推察されるが、修了間際にある国家試験の存在感は大いであろう。なにせ毎年、養成校ごとに合格者数・合格率が公表されるために、当然躍起にならざるを得ないはずである。合格者を増やすことだけに注力しすぎたら、合格することだけが目的になってしまったら・・・、私の杞憂であってほしい。

臨床心理士資格と公認心理師資格の大きな相違点

の1つが取得後のことである。臨床心理士は資格の継続にポイント制を取っており、5年間で一定数のポイントを取得するために、所定の学会、研修会、勉強会などに参加して研鑽を積むことが義務付けられている。公認心理師の資格は一度取得すれば一生何もせずとも継続できるという違いがある。職場の要請でもなければ、心理専門職としての仕事に対して何も研鑽しなくてもいい場合もあるわけである。現段階では、公認心理師と臨床心理士のW資格保有者はまだ多数派であろう。ところが、兵庫県内でも臨床心理士養成を中止した大学院が徐々に増えてきている。つまりは若手であっても臨床心理士資格を持たない公認心理師が少しずつ増えていくことになる。資格を取ったらそのあとは研鑽も何もしないという公認心理師が増えていくのではないか・・・、これも私の杞憂であってほしい。

公認心理師の職能団体である兵庫県公認心理師会は、私の杞憂を払拭する存在であってほしい。新しい知識やスキルの習得、新たなインパクトを受けることで感動や反省を体験すること、同業者という仲間との出会いがあることで、劣化せずに仕事が継続できると私は考えている。資格を取得した後どのような職場で働くとしても、同僚ではなくても意思疎通のできる同じ資格を持った同業者の存在は案外大きい。当会は学びだけでなく仲間をつくる居場所としての会であってほしい。令和の時代、お金を払って土日の休みに自己研鑽する風潮が減退しているように感じる。資格を取ったらもういいと思っている人も増えているのかもしれない。当会はそのような流れに抗うような存在として、所属してみたい、参加してみたいと思える魅力ある内容を提供できればと思う。また別団体である兵庫県臨床心理士会とのコラボレーションも試みながら、心理専門職として兵庫県を支える存在になればと思う。

公認心理師の資格を取得したら、当然入会するものだという意識が定着してもらうことに努力を惜しまず進んでいきたい。